

表 12. 高校 2 年生になった時を想定して、友達性の関係をかまわないと思うか？

		男子		女子		
		人数	容認する (%)	人数	容認する (%)	
G0 非介入群	事前	1358	58.5	事前	1211	55.5
	事後	1350	55.5	事後	1193	52.2
	差		-3.0	差		-3.3
G1 フルモデル群	事前	337	48.8	事前	349	50.3
	事後	333	50.7	事後	338	42.2
	差		1.9	差		-8.1
G2 「パウボ+ビデオ」群	事前	350	50.6	事前	322	53.2
	事後	353	44.5	事後	317	41.6
	差		-6.1	差		-11.6
G3 パウボ群	事前	448	45.8	事前	400	48.0
	事後	444	40.9	事後	400	45.2
	差		-4.9	差		-2.8

**交際相手からの性関係の誘いに対する態度(表 13: 女子のみ対象)**

性経験の有無に関わらず全ての中学 3 年生女子に、「高校 2 年生になった時を想定して、交際相手から性関係を求められたらどうするか」を尋ねた。「絶対に断ると思う」、「たぶん断ると思う」、「断るかどうかわからない」、「たぶん断らないと思う」、「絶対に断らないと思う」の 5 段階で性関係の誘いに対する態度の変化を調べた。「絶対に断る」と答えた人の割合 (%) を介入前後で性別介入校群別に表 13 に示した。G0 群の非介入学校群ではほとんど変化がなかったのに対し、G1、G2 群の「パウボ+ビデオ」両方を用いたモデル授業群で性関係を拒否する人の割合が 3~5% 上昇した。

表 13. 高校 2 年生になった時を想定して、交際相手から性関係を求められたらどうするか？

		人数	拒否する (%)
G0 非介入群	事前	1211	14.4
	事後	1193	14.5
	差		0.1
G1 フルモデル群	事前	349	12.8
	事後	338	15.4
	差		2.6
G2 「パウボ+ビデオ」群	事前	322	13.5
	事後	317	18.4
	差		4.9
G3 パウボ群	事前	400	18.1
	事後	400	18.1
	差		0.0

以上の変化をグラフ化し、統計学的検定の結果を加えたのが図7である。図に示されるように、①「中学生が性関係を持つことに対する容認率」は、男子では、介入効果は確認されなかったが、女子では、非介入群に比べ介入群（G1～G3）では、統計的に有意の容認率の低下が示された（女子  $P=0.004$ ）。②「高校生が性関係を持つことに対する容認率」では、容認率が低下する傾向、③「交際相手から性関係を求められた時の態度」（女子のみ）でも、介入群で拒否する割合が増加する傾向が見られたが有意差には達しなかった（ $P>0.1$ ）。

図7. 中学3年生の性意識の変化

分類	学校数	介入内容	人数 上段:女 下段:男	中3の性行為容認			高2の性行為容認					性的経験を断る自信(高時)	
				△(事後-事前)	事前%	事後%	△(事後-事前)	事前%	事後%	事前%	事後%	△(事後-事前)	事後%
G0	22	非介入群 (シフ、ポスターのみ)	1211 1368	女 32 31	-0.7		女 56 52	-3.3		14	0.1		
				男 40 42	2.0		男 59 56	3.0		15			
G1	8	フルモデル授業	349 337	女 27 23	-3.4		女 50 42	-8.1		13	2.8		
				男 33 37	4.3		男 51 49	1.9		15			
G2	5	「ハワポ+ビデオ」群	322 350	女 27 23	-3.6		女 53 42	-11.6		14	4.9		
				男 34 34	0.6		男 51 45	-6.1		18			
G3	6	「ハワポのみ」群	400 448	女 29 25	-4.0		女 48 45	-2.8		18	0.0		
				男 29 24	-4.6		男 46 41	-4.9		18			
△に関するG1とG2-G4間の検定				女子 $P=0.004$ 男子 $P=0.552$			女子 $P=0.244$ 男子 $P=0.136$					$P=0.212$	

\*one sample t-test

### 自分自身のリスク認知(表14、15)

性経験の有無に関わらず全ての中学3年生に、「将来、自分が性感染症に感染する可能性があると思うか?」、「将来、自分がエイズに感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「たぶんあまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の5段階で、介入前後の自分自身のリスク認知の変化を調べた。「かなりあると思う」と答えた人の割合(%)を、介入前後で、性別・介入群別に示した(表14: STDリスク認知、表15: HIV感染リスク認知)。まず、STDリスク認知では、男子は介入の有無や種類にかかわらず約2%上昇した。それに対し、女子ではG0の非介入群ではリスク認知が約1%程度減少したのに対し、介入群(G1～G3)では約6～8%のリスク認知の向上が観察された。

表 14. 将来、自分が STD にかかる可能性はあると思うか？

		男子		女子		
		人数	かなりある (%)	人数	かなりある (%)	
G0 非介入群	事前	1182	2.9	事前	1089	4.4
	事後	1178	4.9	事後	1095	2.9
	差		2.0	差		-1.5
G1 フルモデル群	事前	295	8.5	事前	328	5.5
	事後	298	9.4	事後	325	11.4
	差		0.9			5.9
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	308	3.9	事前	297	2.0
	事後	317	6.0	事後	305	9.2
	差		2.1	差		7.2
G3 パワポ群	事前	391	5.1	事前	381	4.5
	事後	406	7.6	事後	387	12.9
	差		2.5	差		8.4

次に、HIV リスク認知では、男子では、介入の有無や種類にかかわらず約 2~5%の上昇であった。一方、女子では先述の STD リスク認知同様、G0 の非介入群では約 1%程度、リスク認知が減少したが、介入群 (G1~G3) では約 4~7%のリスク認知の向上が観察された。

表 15. 将来、自分が HIV に感染する可能性はあると思うか？

		男子		女子		
		人数	かなりある (%)	人数	かなりある (%)	
G0 非介入群	事前	1182	1.4	事前	1089	3.2
	事後	1350	3.7	事後	1095	2.1
	差		2.3	差		-1.1
G1 フルモデル群	事前	295	4.4	事前	328	4.0
	事後	333	7.4	事後	325	8.0
	差		3.0			4.0
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	308	0.6	事前	297	1.7
	事後	317	5.4	事後	305	5.2
	差		4.8	差		3.5
G3 パワポ群	事前	391	3.3	事前	381	2.9
	事後	406	5.9	事後	387	9.6
	差		2.6	差		6.7

以上の変化をグラフ化し、統計学的検定の結果を加えたのが図 8 である。図に示されるように、①「STD リスク認知」は、男子では、介入効果は確認されなかったが、女子では、非介入群に比べ介入群 (G1~G3) で、統計的に有意のリスク認知の上昇が示された (女子  $P=0.007$ )。②「HIV リスク認知」は、女子では、介入群で、有意のリスク認知の上昇が観察されたが (女子  $P=0.028$ )、男子では、介入群でリスク認知が上昇する傾向が見られるにとどまった ( $P>0.1$ )。

図8. 中学3年生のリスク認知の変化

分類	学校数	介入内容	人数 上段：女子 下段：男子	STD感染リスク認知				HIV感染リスク認知						
				事前 (%) 事後 (%)	△ (事後-事前)			事前 (%) 事後 (%)	△ (事後-事前)					
					-5	0	5		10	-5	0	5	10	
G0	22	非介入群 (パンフ・ ポスター のみ)	1089	女 { 4.4 2.9	-1.5				女 { 3.2 2.1	-1.1				
			1182	男 { 2.9 4.9	2.0			男 { 1.4 3.7	2.3					
G1	8	フルモデル 授業	328	女 { 5.5 11.4	5.9				女 { 4.0 8.0	4.0				
			295	男 { 8.5 9.4	0.9			男 { 4.4 7.4	3.0					
G2	5	「パワポ+ ビデオ」群	297	女 { 2.0 9.2	7.2				女 { 1.7 5.2	3.5				
			308	男 { 3.9 6.0	2.1			男 { 0.6 5.4	4.8					
G3	6	パワポ のみ群	381	女 { 4.5 12.9	8.4				女 { 2.9 9.6	6.7				
			391	男 { 5.1 7.6	2.5			男 { 3.3 5.9	2.8					
△に関するG1と G2-G4間の検定*			女子P=0.007 男子P=0.762				女子P=0.028 男子P=0.192							

\*one sample t-test

◆高校2年生

高校生の性関係を容認している割合(表16)

性経験の有無に関わらず全ての高校2年生に、「高校2年生が性関係を持つことをどう思いますか」と尋ねた。介入により、容認度が変化したか調べるために、「かまわないと思う」人の割合(%)を介入前後で性別・介入群別に表16に示した。それによると、男女とも、G0の非介入群では、容認率は約1%前後上昇したが、介入群(G1~G3)ではG2男子以外は、0.2%~4%程度の容認率の減少が観察された。

表16. 高校生(2年生)の性関係を容認している生徒の割合

		男子		女子		
		人数	容認する (%)	人数	容認する (%)	
G0 非介入群	事前	391	53.5	事前	623	48.2
	事後	380	54.2	事後	604	49.7
	差		0.7	差		1.5
G1 フルモデル群	事前	911	56.6	事前	995	53.2
	事後	903	52.9	事後	964	49.9
	差		-3.7	差		-3.3
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	427	56.0	事前	683	39.8
	事後	420	56.2	事後	680	39.7
	差		0.2	差		-0.1
G3 パワポ群	事前	221	52.5	事前	582	54.5
	事後	216	52.3	事後	566	51.2
	差		-0.2	差		-3.3

### 自分自身のリスク認知(表 17, 18)

性経験の有無に関わらず全ての高校2年生に、「将来、自分が性感染症に感染する可能性があると思うか?」、「将来、自分がエイズに感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくないと思う」、「たぶんあまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の5段階で、介入前後の自分自身のリスク認知の変化を調べた。「かなりあると思う」と答えた人の割合(%)を介入前後で性別・介入群別に示した。STDリスク認知(表17)では、男女とも、G0(非介入群)ではリスク認知が減少していたが、G1(フルモデル群)では3~4%、G2(「パワポ+ビデオ」群)では1~2%のリスク認知の上昇が観察された。次に、HIVリスク認知(表18)では、男女とも、G0の非介入群ではリスク認知が低下していたが、介入群(G1~G3)では1~4%のリスク認知の向上が観察された。

表 17. 将来、自分が STD にかかる可能性はあると思うか?

		男子		女子	
		人数	かなりある(%)	人数	かなりある(%)
G0 非介入群	事前	391	5.1	623	7.1
	事後	380	4.7	604	5.0
	差		-0.4		-2.1
G1 フルモデル群	事前	911	3.3	195	3.6
	事後	903	5.9	214	7.3
	差	-8	2.6		3.7
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	427	3.7	683	5.9
	事後	420	5.5	680	7.1
	差		1.8		1.2
G3 パワポ群	事前	221	4.5	582	5.8
	事後	216	3.7	566	7.8
	差		-0.8		2.0

表 18. 将来、自分が HIV に感染する可能性はあると思うか?

		男子		女子	
		人数	かなりある(%)	人数	かなりある(%)
G0 非介入群	事前	391	4.3	623	4.3
	事後	380	2.9	604	3.1
	差		-1.4		-1.2
G1 フルモデル群	事前	911	2.3	195	1.0
	事後	903	4.4	214	5.2
	差		2.1		4.2
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	427	2.3	683	3.4
	事後	420	4.5	680	4.0
	差		2.2		0.6
G3 パワポ群	事前	221	3.2	582	3.8
	事後	216	4.2	566	6.7
	差		1.0		2.9

以上の変化をグラフ化し、統計学的検定の結果を加えたのが図9である。図に示されるように、「高校生の性関係の容認率」は、男女とも、非介入群に比べ介入群では、容認率が低下する傾向が観察された(男子  $P > 0.1$ 、女子  $P = 0.073$ )。また、「STDリスク認知」、「HIVリスク認知」ともに、G0(非介入群)に比べ介入群(G1~G3)で、男女ともにリスク認知の上昇が示された(STDリスク認知: 女子  $P = 0.027$ 、男子  $P > 0.1$ 、HIVリスク認知: 女子  $P = 0.070$ 、男子  $P = 0.014$ )。

図 9. 高校 2 年生における性意識・リスク認知の変化

分類	学校数	介入内容	人数 上段:女 下段:男	高校生の性行為容認				STD感染リスク認知				HIV感染リスク認知			
				事前(%) 事後(%)	△(事後-事前)			事前(%) 事後(%)	△(事後-事前)			事前(%) 事後(%)	△(事後-事前)		
					-4	-2	0		2	-5	0		5	-5	0
G0	22	非介入群 (パンフ・ポスターのみ)	623 391	女 { 50 48 } 男 { 54 54 }	1.5 0.7		女 { 7.1 5.0 } 男 { 5.1 4.7 }	-2.1 -0.4		女 { 4.3 3.1 } 男 { 4.3 2.9 }	-1.2 -1.4				
G1	8	フルモデル授業	995 911	女 { 53 50 } 男 { 57 53 }	-3.3 -3.7		女 { 3.6 7.3 } 男 { 3.3 5.9 }	3.7 2.6		女 { 1.0 5.2 } 男 { 2.3 4.4 }	4.2 2.1				
G2	5	「パワポ+ビデオ」群	683 427	女 { 40 40 } 男 { 56 56 }	-0.1 0.2		女 { 5.9 7.1 } 男 { 3.7 5.5 }	1.2 1.8		女 { 3.4 4.0 } 男 { 2.3 4.5 }	0.6 2.2				
G3	6	パワポのみ群	582 221	女 { 55 51 } 男 { 53 52 }	-3.3 -0.2		女 { 5.8 7.8 } 男 { 4.5 3.7 }	2.0 -0.8		女 { 3.8 6.7 } 男 { 3.3 4.2 }	2.9 1.0				
△に関するG1とG2-G4間の検定*				女子 $F=0.073$ 男子 $F=0.259$				女子 $F=0.027$ 男子 $F=0.259$				女子 $F=0.070$ 男子 $F=0.014$			

\*one sample t-test

(3) 性行動の変化—性交経験率とコンドーム常用率

◆ 中学 3 年生(表 19、表 20、図 10)—性交経験率とコンドーム常用率

介入により性行動が活発化したどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 19 に示し、介入前後の差を図 10 に示した。介入群、非介入群ともに数%経験率が上昇したが、介入校と非介入群との差異は認められず、昨年に続き、予防介入により性行動が活発化することがないことが再確認された。

表 19. 性経験率

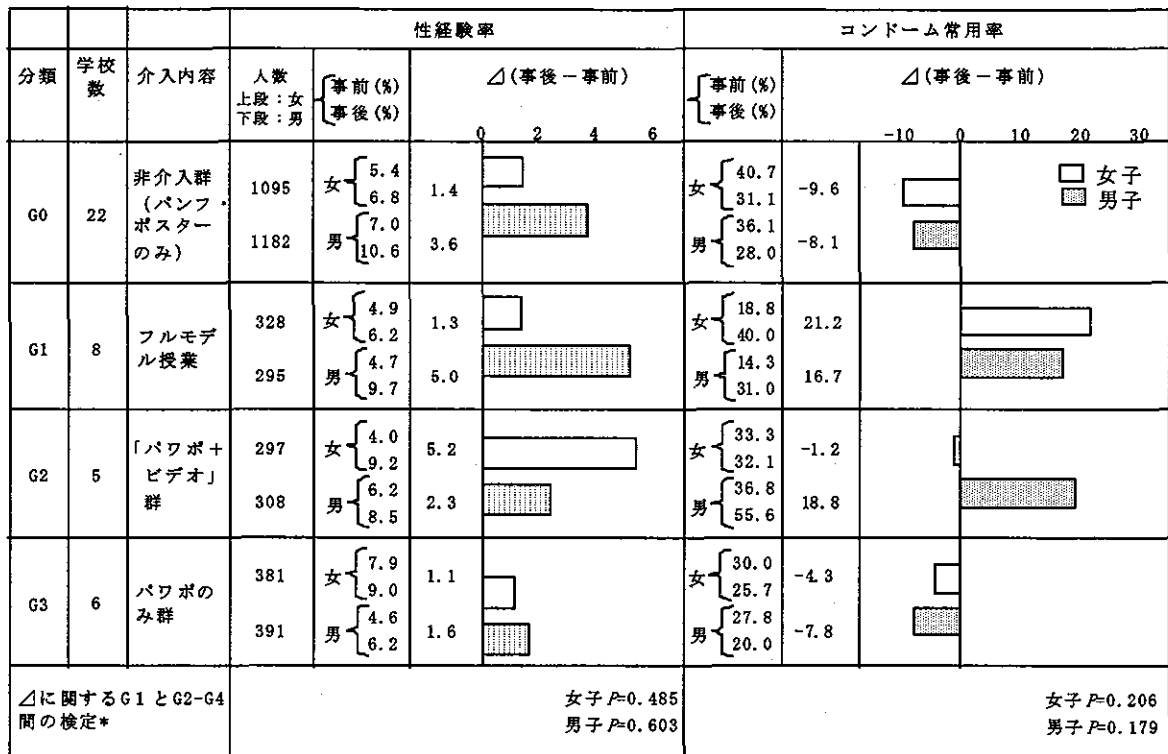
		男子		女子	
		人数	性経験率(%)	人数	性経験率(%)
G0 非介入群	事前	1182	7.0	1095	5.4
	事後	1178	10.6	1089	6.8
	差		3.6		1.4
G1 フルモデル群	事前	295	4.7	328	4.9
	事後	298	9.7	325	6.2
	差		5.0		1.3
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	308	6.2	297	4.0
	事後	317	8.5	305	9.2
	差		2.3		5.2
G3 パワポ群	事前	391	4.6	381	7.9
	事後	406	6.2	387	9.0
	差		1.6		1.1

介入により予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム常用率を比較した。過去3ヶ月間のコンドーム毎回使用率を介入前後で性別・介入群別に表20に示し、介入前後の差を図10に示した。G0（非介入群）では、男女とも約10%程度の使用率の低下が観察されたが、G1（フルモデル群）の男女および、G2（「パワポ+ビデオ」群）の男子では約20%もの常用率の上昇が観察された。G2の女子では使用率の上昇はなく、またG3（パワポ群）では、コンドーム常用率はG0と同様減少していることから、予防行動の促進にはフルモデルの導入が望ましい可能性が示唆された。ただ、いずれの群も例数が少ないので注意が必要である。

表20.過去3ヶ月間のコンドーム使用率

		人数		常用率 (%)		人数		常用率 (%)	
		事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
G0 非介入群	事前	83		36.1		59		40.7	
	事後		125		28.0		74		31.1
	差				-8.1				-9.6
G1 フルモデル群	事前	14		14.3		16		18.8	
	事後		29		31.0		20		40.0
	差				16.7				21.2
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	19		36.8		12		33.3	
	事後		27		55.6		28		32.1
	差				18.8				-1.2
G3 パワポ群	事前	18		27.8		30		30.0	
	事後		25		20.0		35		25.7
	差				-7.8				-4.3

図10.中学3年生における性行動の変化



\* one sample t-test

◆高校2年生(表 21、表 22、図 11)ー性交経験率とコンドーム常用率

介入により性行動が活発化したかどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入校群別に表 21 に示し、介入前後の差を図 11 に示した。非介入群 (G0)、介入群 (G1~G3) とともに数%経験率が上昇したが、介入群と非介入群の間に差はなかった。

表 21.性経験率

		男子		女子		
		人数	性経験率 (%)	人数	性経験率 (%)	
G0 非介入群	事前	391	16.9	事前	623	25.0
	事後	380	21.1	事後	604	27.3
	差		4.2	差		2.3
G1 フルモデル群	事前	911	20.5	事前	995	28.1
	事後	903	24.9	事後	964	30.9
	差		4.4	差		2.8
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	427	11.9	事前	683	20.2
	事後	420	15.2	事後	680	24.0
	差		3.3	差		3.8
G3 パワポ群	事前	221	21.7	事前	582	26.3
	事後	216	23.6	事後	566	29.5
	差		1.9	差		3.2

介入により予防行動が促進されたかどうかを調べるために介入前後のコンドーム常用率を比較した。過去3ヶ月間のコンドーム毎回使用率を介入前後で性別・介入校群別に表 22 に示し、介入前後の差を図 11 に示した。非介入群 (G0) では、男女とも約3~4%程度の使用率の低下が観察されたが、G1 (フルモデル群) の男女では逆に約5%前後の使用率の上昇が観察され、G3 の介入群男子では20%近い使用率の上昇が見られたが、G2 群では逆に減少した。中学生の場合と同様、予防行動を促進するには、フルモデルの導入が望ましい可能性が示唆された。ただ、男子のG2、G3 群は例数が少ないので、注意が必要である。

表 22.過去3ヶ月間のコンドーム常用率

		常用率 (%)		人数	常用率 (%)	
		人数	常用率 (%)			
G0 非介入群	事前	47	42.6	事前	114	38.6
	事後	55	38.2	事後	113	35.4
	差		-4.4	差		-3.2
G1 フルモデル群	事前	114	44.7	事前	195	41.0
	事後	137	49.6	事後	214	46.3
	差		4.9	差		5.3
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	24	54.2	事前	107	45.8
	事後	36	47.2	事後	119	41.2
	差		-7.0	差		-4.6
G3 パワポ群	事前	28	32.1	事前	108	39.8
	事後	36	50.0	事後	115	41.7
	差		17.9	差		1.9



図 11. 高校 2 年生における性行動の変化

分類	学校数	介入内容	性経験率				コンドーム常用率					
			N	事前 (%) 事後 (%)	△ (事後-事前)		事前 (%) 事後 (%)	△ (事後-事前)				
					2	4	6		-10	0	10	20
G0	22	非介入群 (パンフ・ポスターのみ)	623	女 { 25 27	2.3	[ ]		女 { 38.6 35.4	-3.2	[ ]		女子 男子
			391	男 { 17 21	4.2	[ ]		男 { 42.6 38.2	-4.4	[ ]		
G1	8	フルモデル授業	995	女 { 28 31	2.8	[ ]		女 { 41.0 46.3	5.3	[ ]		
			911	男 { 21 25	4.4	[ ]		男 { 44.7 49.6	4.9	[ ]		
G2	5	「パワポ+ビデオ」群	683	女 { 20 24	3.8	[ ]		女 { 45.8 41.2	-4.6	[ ]		
			427	男 { 12 15	3.3	[ ]		男 { 54.2 47.2	-7.0	[ ]		
G3	6	パワポのみ群	582	女 { 26 30	3.2	[ ]		女 { 39.8 41.7	1.9	[ ]		
			221	男 { 22 24	1.9	[ ]		男 { 32.1 50.0	17.9	[ ]		
△に関するG1とG2-G4間の検定*			女子 F=0.080 男子 F=0.301				女子 F=0.296 男子 F=0.311					

\*one sample t-test

◆高校 2 年生—予防意識(コンドーム使用目的)の変化(表 23)

介入により予防意識が向上したかどうかを調べるために介入前後のコンドーム使用目的を比較した。コンドームの使用目的を介入前後で性別・介入校群別に表 23 に示した。まず男子は、非介入群では、STD 予防目的、HIV 予防目的ともに減少していたが、フルモデル群 (G1) では、STD 予防目的が 15 以上上昇、HIV 予防目的も 10% 以上の上昇が観察され、G3 の介入群でも STD、HIV 予防目的の 3~6% の上昇が観察された。一方女子は、G0 の非介入群でも、4~7% 程度の STD/HIV 予防目的の上昇が見られたが、G1~G3 の介入群では 8%~20% 近い STD/HIV 予防目的の上昇が示された。コンドーム常用率の場合と同様、予防意識を向上するには、フルモデルの導入が望ましい可能性が示唆された。ただ、男子の G2、G3 群は例数が少ないので、注意が必要である。

表 23.コンドームの使用目的

		男子			女子			
		人数	STD 予防 (%)	HIV 予防 (%)	人数	STD 予防 (%)	HIV 予防 (%)	
G0 非介入群	事前	44	43.2	38.6	事前	110	34.5	28.2
	事後	53	37.7	35.8	事後	110	38.2	35.5
	差		-5.5	-2.8	差		3.7	7.3
G1 フルモデル群	事前	112	31.3	34.8	事前	182	30.8	23.6
	事後	136	48.5	44.1	事後	211	42.2	33.6
	差		17.2	9.3	差		11.4	10.0
G2 「パワポ+ビデオ」群	事前	24	50.0	50.0	事前	102	34.3	27.5
	事後	35	40.0	42.9	事後	116	51.7	40.5
	差		-10.0	-7.1	差		17.4	13.0
G3 パワポ群	事前	27	37.0	37.0	事前	104	38.5	33.7
	事後	35	40.0	42.9	事後	112	46.4	42.0
	差		3.0	5.9	差		7.9	8.3

### 1-① 2004 年度全国の中中学生/高校生に対する予防プロジェクトの評価のまとめ

今回のプロジェクトによって、以下のような成績が得られた。

(非介入学校群[WYSH ポスターパンフの掲示配布のみ]とフルモデル授業実施群との比較)

#### 【中学 3 年生】

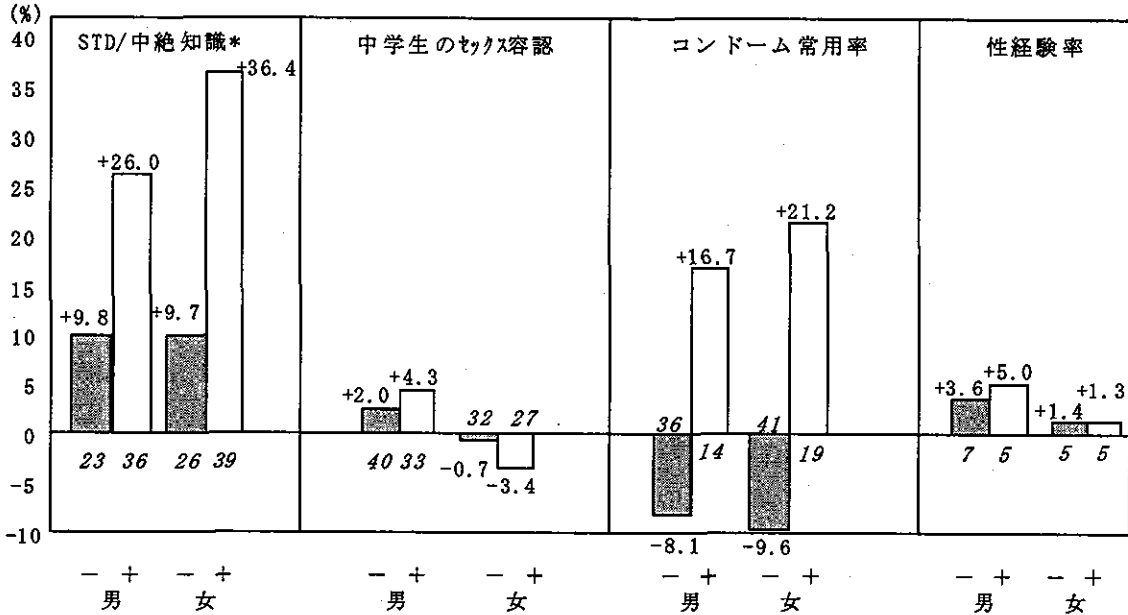
- ① 知識：男女とも、知識が大幅に（約 30%）上昇した。
- ② 意識：[中学生の性関係の容認率]は、女子で容認率が低下した。
- ③ 行動：[予防行動（コンドーム使用率）]は、非介入群ではかなり減少したが（約 10%）、本プロジェクト実施群では、男女とも大幅に（約 20%）コンドーム使用率が上昇した。
- ④ 性経験率：本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

#### 【高校 2 年生】

- ① 知識：男女とも、知識が大幅に（約 30%）上昇した。
- ② 意識：[高校生の性関係の容認率]は、男女とも低下傾向が見られた。
- ③ 行動：[予防行動（コンドーム使用率）]は、非介入群では減少したが、本プロジェクト実施群では、コンドーム使用率が上昇した（約 5%）。
- ④ 性経験率：本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

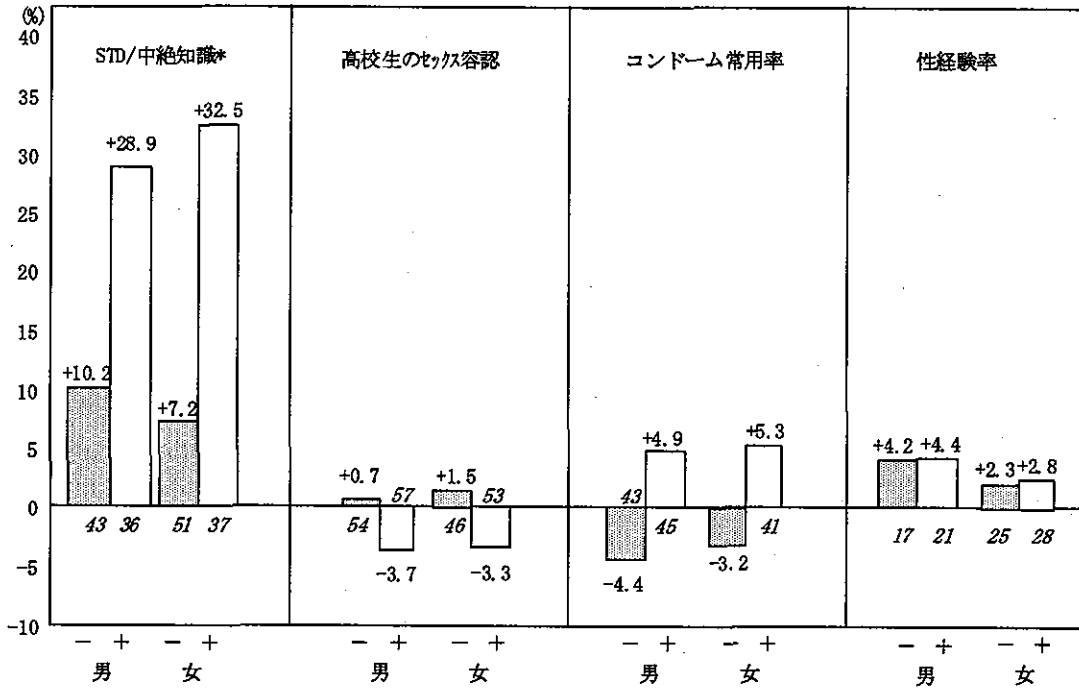
本プロジェクトで開発したモデル授業やその教材が、中高生の性行動を活発化させることなく、知識、性規範、予防行動（コンドーム使用）にポジティブな影響を与えることが示唆された。

予防介入の効果のまとめ：中学3年生  
非介入群 vs. フルモデル授業群



\*①クラミジアは性病、②STD/HIV相互作用、③STDは無症状ありうる  
④STDは不妊の原因、⑤STDは子宮癌の原因、⑥地域で10代の中絶増加の増加率の平均値  
“-” = 非介入群 “+” = フルモデル授業群

予防介入の効果のまとめ：高校2年生  
非介入群 vs. フルモデル授業群



\*①クラミジアは性病、②STD/HIV相互作用、③STDは無症状ありうる  
④STDは不妊の原因、⑤STDは子宮癌の原因、⑥地域で10代の中絶増加の増加率の平均  
“-” = 非介入群 “+” = フルモデル授業群

## 2. 観察的研究:セカンドオーディエンスによる高校生の性意識調査

### 2-① 全国高校生の生活・意識調査

#### 【 調査目的 】

わが国の高校生の HIV/STD に関連する知識、性に対する意識・態度、性行動に関する現状を把握する。

#### 【 調査者 】

(主体) 社団法人全国高等学校 PTA 連合会

(協力) 厚生労働省 HIV 社会疫学研究班若者予防グループ

社団法人全国高等学校 PTA 連合会健全育成委員会委員、全国高等学校校長会委員、本分担研究者(木原雅子)を委員長として構成される『高校生の心身の健康を育む家庭教育の充実事業協力者会議』が設置され、各都道府県市高等学校 PTA 連合会の協力を得て調査が実施された。

#### 【 対象と方法 】

(1) 調査実施時期: 2004 年 10 月

(2) 対象: 全国の公立高等学校の生徒(全学年)

(3) 調査方法

サンプリング方法: 割当て法 (quota sampling)

- ・ 全国 9 地区 (北海道、東北、関東、東京、東海、北信越、関西、中四国、九州)
- ・ 各地区から 5 校選出 (9 × 5 = 45 校)
- ・ 各校全学年から各 2 クラス選出
  - ① 学校は郡部/都市部、実業高校/普通高校の偏りがないように選出
  - ② クラスはできるかぎり各学年の中で平均的なクラスを選出

#### 実施方法

無記名自記式質問紙調査、学校における集合調査。調査は試験と同じ要領で実施(記入中は他の生徒と私語禁止。他の生徒の解答用紙は見ない。全員が調査終了するまで席を離れない)。調査に先立ち、学校関係者により、調査の重要性の説明。

(4) 質問紙と調査項目

自記式で 10 ページ、回答所要時間は約 15 分間、主質問 34 問、付問 6 を含めて 80 問。質問紙の構成は、①属性、②家族構成、③家庭での会話頻度、④交友関係、⑤日常生活、⑥エイズ/性感染症関連知識、⑦性情報への曝露、⑧交際状況、⑨性行動(経験者のみ)、⑩性意識、⑪エイズ/性感染症リスク認知、⑫コンドーム使用に対する態度、⑬性教育・性情報に対する要望など(資料 10)。

(5) 調査参加生徒数

調査に参加した生徒総数は 9,587 人(回収率 99.6%)で、そのうち有効回答者 9,567 人、無効回答者 20 人(回答に論理的に矛盾する回答が含まれている場合、個別の調査票を確認し無効とした)であった。参加者の性別学年別内訳は、高校 1 年生 3,322 人(男子 1,595 人、女子 1,727 人)、高校 2 年生 3,254 人(男子 1,476 人、女子 1,778 人)、高校 3 年生 2,991 人(男子 1,411 人、女子 1,580 人)であった。

## (6) 統計学的分析

カテゴリー変数の検定にはカイ二乗検定を用い、多変数の交絡の調整には多重ロジスティック回帰分析法を用いた。計算には、SPSS ver. 12 を使用した。なお、検定は時間の制約上、一部に限定して行い、検定を行ったもののみ、その結果を記載した。また、多重仮説検定は行っていないので、注意が必要である。

## (7) 倫理的配慮

倫理的配慮として、質問紙の表紙には、匿名性を保つこと、データは統計処理され個人が特定されることはないことを明記した。また、調査開始に際し、この調査は強制でないこと、答えたくなかったら答えなくてもよいこと（白紙の提出可）、記入しなかったことによって成績や学校での評価に影響することはないこと、調査を拒否しても何ら不利益を被らないことを質問紙の表紙に記載し、教員より口頭でも説明した。また、調査終了後は、生徒自身により、添付のカラーシールで封をさせ、学校関係者は内容を見ないことを説明した。

## 【 調査結果 】

### A. 基本的分析（学年・性別集計）

#### (1) 家庭生活

##### ◆ 家族との会話頻度（表1. 表2）

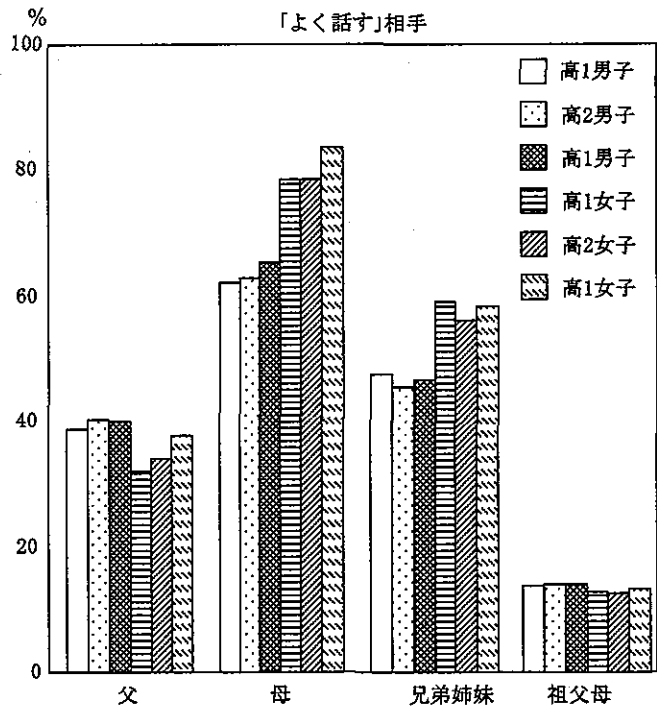
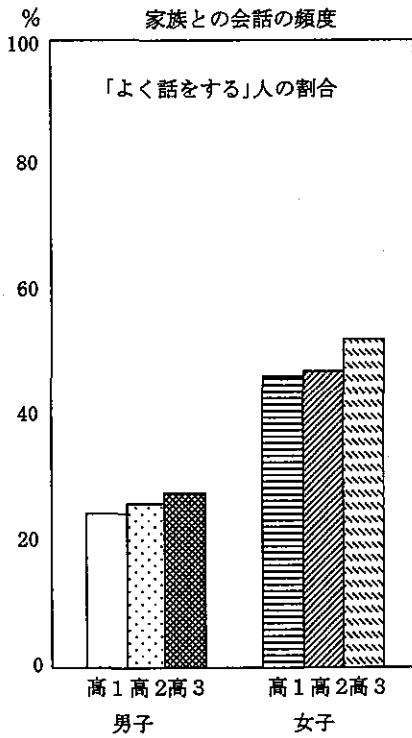
高校生男女の家族との日常会話頻度を尋ねた（表1）。「よく話をする」生徒は高1、高2、高3の順に（以下同様の学年順）、男子では24%、26%、27%、女子では46%、47%、52%で女子の方が2割ほど多く（ $P<0.001$ ）、わずかではあるが学年上昇とともに増加する傾向が見られた。また、表2に会話の相手を示す。「わりと話をする」「よく話をする」相手は、男女とも母親（男子90%、91%、91%、女子92%、92%、95%）が一位で90%を超え、兄弟姉妹（男子68%、66%、65%、女子69%、66%、66%）、父親（男子56%、58%、56%、女子38%、40%、42%）の順で、父親との会話は男子生徒の方が多かった（ $P<0.001$ ）。

表1. 家族との日常会話頻度

		男子	%	女子	%
1年生	まったく話をしない	20	1.3	8	0.5
	ほとんど話をしない	74	4.6	48	2.8
	たまに話をする	387	24.3	195	11.3
	わりと話をする	727	45.6	671	38.9
	よく話をする	382	23.9	801	46.4
	不明	5	0.3	4	0.2
	合計		1595	100.0	1727
2年生	まったく話をしない	17	1.2	6	0.3
	ほとんど話をしない	79	5.4	48	2.7
	たまに話をする	353	23.9	207	11.6
	わりと話をする	644	43.6	678	38.1
	よく話をする	378	25.6	836	47.0
	不明	5	0.3	3	0.2
	合計		1476	100.0	1778
3年生	まったく話をしない	19	1.3	3	0.2
	ほとんど話をしない	73	5.2	37	2.3
	たまに話をする	303	21.5	146	9.2
	わりと話をする	626	44.4	566	35.8
	よく話をする	386	27.4	826	52.3
	不明	4	0.3	2	0.1
	合計		1411	100.0	1580

表2. 「わりと話をする」「よく話をする」相手はだれですか？(複数回答)

		男子		女子	
			%		%
1年生	父	618	55.8	553	37.6
	母	994	89.7	1356	92.3
	兄弟姉妹	757	68.3	1020	69.4
	祖父母	217	19.6	219	14.9
	その他	23	2.1	24	1.6
	合計	1108	100.0	1469	100.0
2年生	父	593	58.2	606	40.1
	母	929	91.2	1395	92.3
	兄弟姉妹	672	65.9	1000	66.1
	祖父母	204	20.0	224	14.8
	その他	17	1.7	32	2.1
	合計	1019	100.0	1512	100.0
3年生	父	566	56.1	590	42.4
	母	919	91.1	1322	95.1
	兄弟姉妹	658	65.2	923	66.4
	祖父母	195	19.3	207	14.9
	その他	21	2.1	34	2.4
	合計	1009	100.0	1390	100.0



◆ 深刻な悩みの相談 (表 3. 表 4)

とても深刻な悩みがあるとき、家族に相談するかどうかを尋ねた (表 3)。「絶対に相談する」「たぶん相談する」生徒は男子 23%、26%、31%、女子 37%、42%、46%で深刻な悩みの相談相手として家族を考えている生徒は 4 分の 1 から半数弱にとどまり、男女比較では女子の方が高く (P<0.01)、学年上昇とともに増加する傾向が見られた。また、表 4 に相談相手を示すが、可能性のある相談相手は、日常会話の相手同様、母親が最も多く、男子 79%、81%、83%、女子 84%、84%、87%と男女とも 8 割前後で、2 番目は父親で、男子で 41%、45%、45%であったが、女子で 9%、12%、13%にとどまり、学年とともに若干の上昇はあるものの、男子に比べ女子生徒と父親との距離はかなり大きいことが示された (P<0.001)。

表 3. 深刻な悩みがあるとき、家族に相談しますか？

		男子	%	女子	%
1 年生	ぜったいに相談する	39	2.4	85	4.9
	たぶん相談する	327	20.5	557	32.3
	たぶん相談しない	676	42.4	600	34.7
	ぜったいに相談しない	252	15.8	203	11.8
	わからない	299	18.7	281	16.3
	不明	2	0.1	1	0.1
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2 年生	ぜったいに相談する	35	2.4	116	6.5
	たぶん相談する	359	24.3	623	35.0
	たぶん相談しない	614	41.6	562	31.6
	ぜったいに相談しない	211	14.3	202	11.4
	わからない	251	17.0	273	15.4
	不明	6	0.4	2	0.1
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3 年生	ぜったいに相談する	72	5.1	131	8.3
	たぶん相談する	360	25.5	604	38.2
	たぶん相談しない	554	39.3	461	29.2
	ぜったいに相談しない	223	15.8	131	8.3
	わからない	195	13.8	249	15.8
	不明	7	0.5	4	0.3
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表 4. 相談する相手は誰ですか？ (複数回答)

		男子	%	女子	%
1 年生	父	148	40.9	56	8.7
	母	287	79.3	535	83.5
	兄姉	73	20.2	182	28.4
	祖父母	17	4.7	16	2.5
	その他	23	6.4	40	6.2
	合計	362	100.0	641	100.0
	2 年生	父	173	44.6	84
母		313	80.7	619	84.4
兄姉		83	21.4	193	26.3
祖父母		10	2.6	23	3.1
その他		11	2.8	43	5.9
合計		388	100.0	733	100.0
3 年生		父	191	44.6	92
	母	357	83.4	637	87.0
	兄姉	95	22.2	199	27.2
	祖父母	14	3.3	12	1.6
	その他	23	5.4	67	9.2
	合計	428	100.0	732	100.0

◆ 男女交際に関する家族との会話経験 (表 5)

次に男女交際について家族と話した経験を尋ねた (表 5)。男女交際について話した経験は男子で 30%、36%、41%、女子では 54%、61%、65%と男女とも学年とともに増加する傾向は共通していたが、相談率は女子の方が 2 割以上も高く (P<0.001)、男女交際に関する家族の態度が男女で大きく差があることが示された。

表 5. 家族と男女交際について話したことがありますか？

		男子	%	女子	%
1 年生	ある	483	30.3	926	53.6
	ない	1089	68.3	777	45.0
	不明	23	1.4	24	1.4
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2 年生	ある	534	36.2	1080	60.7
	ない	922	62.5	687	38.6
	不明	20	1.4	11	0.6
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3 年生	ある	574	40.7	1021	64.6
	ない	815	57.8	555	35.1
	不明	22	1.6	4	0.3
	合計	1411	100.0	1580	100.0



## (2) 友人との関係および精神的状況

### ◆ 各種友人の有無 (表6～表11)

表6～表11では各種友人の有無を尋ねた。「暇な時、一緒にいる友人」を有する生徒は学年順に男子77%、76%、76%で女子83%、80%、82%で(表6)、「よく一緒に遊ぶ友人」を有する生徒は男子83%、81%、82%、女子87%、88%、88%(表7)、「メール交換をする友人」を有する生徒は男子86%、84%、78%、女子95%、96%、94%(表8)、「気が合う友人」を有する生徒は男子90%、89%、89%、女子94%、94%、95%と男女とも9割前後で各種友人の中で最も高い割合であった(表9)。それに対し、「心から信じられる友人」を有する生徒は男子65%、66%、66%、女子でも74%、75%、77%と2～3割減少し(表10)、「困った時、話を聞いてくれる友人」を有する生徒は男子55%、60%、63%、女子で79%、82%、86%に減少し(表11)、9割近い“遊び友達”の多さに比べ、“信頼できる友達”を有する生徒数は限られ、特に男子生徒における友人サポートが少ない傾向が明らかとなった( $P<0.01$ )。

表6. ひまな時、一緒にいる友人はいますか?

		男子	%	女子	%
1年生	いる	1229	77.1	1427	82.6
	いない	130	8.2	69	4.0
	わからない	233	14.6	222	12.9
	不明	3	0.2	9	0.5
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2年生	いる	1131	76.6	1423	80.0
	いない	149	10.1	85	4.8
	わからない	189	12.8	264	14.8
	不明	7	0.5	6	0.3
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3年生	いる	1075	76.2	1289	81.6
	いない	149	10.6	91	5.8
	わからない	179	12.7	195	12.3
	不明	8	0.6	5	0.3
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表7. よく一緒に遊ぶ友人はいますか?

		男子	%	女子	%
1年生	いる	1325	83.1	1499	86.8
	いない	106	6.6	60	3.5
	わからない	162	10.2	162	9.4
	不明	2	0.1	6	0.3
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2年生	いる	1198	81.2	1555	87.5
	いない	138	9.3	67	3.8
	わからない	132	8.9	152	8.5
	不明	8	0.5	4	0.2
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3年生	いる	1161	82.3	1391	88.0
	いない	115	8.2	73	4.6
	わからない	128	9.1	112	7.1
	不明	7	0.5	4	0.3
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表8. メールを交換する友人がいますか？

		男子	%	女子	%
1年生	いる	1369	85.8	1648	95.4
	いない	152	9.5	43	2.5
	わからない	66	4.1	32	1.9
	不明	8	0.5	4	0.2
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2年生	いる	1239	83.9	1699	95.6
	いない	147	10.0	39	2.2
	わからない	81	5.5	36	2.0
	不明	9	0.6	4	0.2
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3年生	いる	1093	77.5	1486	94.1
	いない	207	14.7	59	3.7
	わからない	103	7.3	32	2.0
	不明	8	0.6	3	0.2
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表9. 気があう友人がいますか？

		男子	%	女子	%
1年生	いる	1433	89.8	1622	93.9
	いない	47	2.9	18	1.0
	わからない	113	7.1	84	4.9
	不明	2	0.1	3	0.2
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2年生	いる	1319	89.4	1670	93.9
	いない	38	2.6	26	1.5
	わからない	111	7.5	81	4.6
	不明	8	0.5	1	0.1
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3年生	いる	1261	89.4	1506	95.3
	いない	48	3.4	13	0.8
	わからない	94	6.7	60	3.8
	不明	8	0.6	1	0.1
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表 10. 心から信じられる友人がいますか？

		男子	%	女子	%
1年生	いる	1041	65.3	1274	73.8
	いない	111	7.0	88	5.1
	わからない	440	27.6	357	20.7
	不明	3	0.2	8	0.5
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2年生	いる	974	66.0	1329	74.7
	いない	107	7.2	93	5.2
	わからない	385	26.1	353	19.9
	不明	10	0.7	3	0.2
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3年生	いる	925	65.6	1222	77.3
	いない	133	9.4	78	4.9
	わからない	343	24.3	276	17.5
	不明	10	0.7	4	0.3
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表 11. 困ったとき話を聞いてくれる友人がいますか？

		男子	%	女子	%
1年生	いる	882	55.3	1368	79.2
	いない	138	8.7	58	3.4
	わからない	572	35.9	295	17.1
	不明	3	0.2	6	0.3
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2年生	いる	882	59.8	1449	81.5
	いない	132	8.9	72	4.0
	わからない	451	30.6	256	14.4
	不明	11	0.7	1	0.1
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3年生	いる	886	62.8	1351	85.5
	いない	128	9.1	47	3.0
	わからない	389	27.6	180	11.4
	不明	8	0.6	2	0.1
	合計	1411	100.0	1580	100.0

◆ 精神的状況 (表 12~16)

表 12~16 には高校生の精神的な状況の頻度を示した。下記の精神的状態を学年順性別に見ると、まず「自分がひとりぼっちだとよく感じる」生徒は、男子 11%、14%、15%、女子 14%、14%、15%で男女とも 1 割以上で (表 12)、「よく仲間はずれにされる」生徒は、男子 4%、3%、4%、女子 4%、4%、4%で少数ではあるが男女同程度に存在する (表 13)。「悲しい時でも、笑顔を見せることがよくある」生徒は男子 23%、24%、28%、女子では 34%、36%、40%で女子の方が 10%以上高く (表 14) ( $P<0.01$ )、また、「泣きたくなるほどつらい気持ちになることがよくある」生徒は、男子 16%、16%、20%で、女子 30%、32%、33%と全体では 2~3 割にも達し、女子の方が男子より約 2 倍の高値を示した (表 15) ( $P<0.01$ )。「がまんできないほど腹が立つことがよくある」生徒は男子で 22%、24%、22%、女子でも 24%、26%、26%と男女ともほぼ同じく 25%程度であった。高校生の精神状態を全般的に見ると、女子の方が不安定な傾向が高いことが示された。

表 12. 自分がひとりぼっちだと感じるがありますか？

		男子	%	女子	%
1 年生	よくある	177	11.1	234	13.5
	ときどきある	367	23.0	502	29.1
	たまにある	685	42.9	740	42.8
	一度もない	356	22.3	239	13.8
	不明	10	0.6	12	0.7
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2 年生	よくある	205	13.9	246	13.8
	ときどきある	357	24.2	592	33.3
	たまにある	621	42.1	702	39.5
	一度もない	286	19.4	233	13.1
	不明	7	0.5	5	0.3
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3 年生	よくある	210	14.9	240	15.2
	ときどきある	370	26.2	490	31.0
	たまにある	539	38.2	654	41.4
	一度もない	279	19.8	190	12.0
	不明	13	0.9	6	0.4
	合計	1411	100.0	1580	100.0

表 13. 友達から仲間はずれにされたことがありますか？

		男子	%	女子	%
1 年生	よくある	56	3.5	63	3.6
	ときどきある	122	7.6	182	10.5
	たまにある	608	38.1	782	45.3
	一度もない	796	49.9	666	38.6
	不明	13	0.8	34	2.0
	合計	1595	100.0	1727	100.0
2 年生	よくある	43	2.9	73	4.1
	ときどきある	118	8.0	181	10.2
	たまにある	595	40.3	820	46.1
	一度もない	706	47.8	677	38.1
	不明	14	0.9	27	1.5
	合計	1476	100.0	1778	100.0
3 年生	よくある	60	4.3	64	4.1
	ときどきある	131	9.3	147	9.3
	たまにある	565	40.0	716	45.3
	一度もない	638	45.2	631	39.9
	不明	17	1.2	22	1.4
	合計	1411	100.0	1580	100.0